

ものづくり企業を支援 カarbonニュートラル ビジネスプロジェクト

地元企業が連携 脱炭素を推進

広島県は温室効果ガス排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラル(CN)の実現に向け、県内ものづくり企業の支援事業に取り組んでいます。2024年度は、製品カーボンフットプリント(CFP)算定・データ連携▽CN取組活性化に向けた金融制度構築▽排出量削減・取組開示のための仕組みづくりの3つのテーマでワークショップ(WS)を開催し、計28社が参加。業界全体の意識醸成や企業同士の連携推進へ、動きを加速させています。



ひろしま ものづくり
カーボンニュートラル
ビジネスプロジェクト
Hiroshima Manufacturing
Carbon Neutral Business Project

実践企業4社対談

CFP算定のWSには、自動車部品製造のシグマ(呉市)と、製造工程の一部を担うメッキ加工の新和金属(広島県府中町)、金属熱処理加工のナガト(広島市南区)と福山熱煉工業(福山市)の計4社が参加。県の支援を受けながら、シグマが製造する部品計5点について、サプライチェーン(供給網)全体でのCO2排出量を一次データを基に算定しました。4社の皆さんに、実感したメリットや課題、今後の展望などを聞きました。

データ収集や 数値化に苦心

「実際に算定してみても、難しかった点は、新和金属、メッキ加工は色や厚さ、表面積などが部品によって異なり、CO2排出量も変わるんです。最終的にどの粒度で排出量を算定するかというところで迷いました。」

をそろえて計算するのも大変でした。

ナガト 熱処理加工でも、例えばガス炉と電気炉では数値が違ってくるので、同じガス炉でも中に入れるガスによつて数値が変わります。

一次データの収集では、原材料調達に関わる数字を集めるのに苦労しました。購入しているメーカーの数が多く、海外の会社もあります。トラ

要があり、かなり大変な作業になりそうです。

「WSに取り組んで良かったこと、新たに見えた課題などはありますか。」

福山熱煉工業 老朽化した設備の熱効率の悪さなどにつ

排出量を算定 改善点が明確に

また、我が社は蓄積していたデータの単位がトンやキロなどばらばらだったので、それら

ツクの大きさや運ぶルートもさまざま。今後はこれらを基にデータベースを作っていく必要がありそうです。

ナガト 削減のためにはどこを改善すればいいか、よく分かりました。油槽制御など温度の低い物から生産を始め、焼き入れによる熱を利用

してエネルギー効率を上げるなど、できるだけCNを頭に置いて進めていければと思います。

より効果的な 加工の提案も

「4社が連携したことにより、どんな成果が出ましたか。」

シグマ 同じ熱処理やメッキ加工でも方法がたくさんあり、それぞれCO2排出量が違ふと分かったことです。例えばこれまで自動車メーカーから指定された熱処理方法をそのままナガトさんたちにお

伝えしていました。でもこれからは、顧客要求精度を確保しつつ、より排出量の少ない方法を、こちらから自動車メ

ンターに提案できそうです。もし全く知らなかったら大変だったと思います。

また、排出量を減らせる可能性が出てきました。これからCNに取り組もうとしている企業にメッセージをお願いします。

シグマ 正直大変ですが、会社を将来的に維持し、成長させるためには絶対に必要なことだと、まずは経営者が理解することが重要です。とはいえ未来がどうなるのか、補助金などどんな支援が受けられるのか分からない、思い切った投資は難しい。昨今は製造業がかなり厳しい状況です。情報収集など自社だけでは難しいことを連携して進め、どうやって生き残っていくかを業界みんなで考えていきたいです。



各製造ラインのリアルタイム電力消費を管理する自社開発システムについて江上さん(左から4人目)から説明を聞く橋本さんたち

< 熱処理加工 >



ナガト 技術部長兼品質保証部次長 山本 英則 さん

< 熱処理加工 >



福山熱煉工業 福山テクノ工場工場長 橋本 幸二 さん



シグマの工場前に立つ、左から江上さん、森本さん、山本さん、橋本さん

<自動車部品製造>



シグマ 企画管理部部長 江上 奈美江 さん

<メッキ加工>



新和金属 取締役総務部長 森本 浩一 さん

広島県の来年度施策

インタビュー

ワークショップ実施

活動報告



CNプラットフォーム構築

広島県は自動車や鉄鋼業などが盛んで、産業分野からの排出量の比率が高い傾向にあります。しかしCNの取り組みはコストがかかる一方、直接的な利益が見えにくい。また方法も分かりにくく十分浸透しているとは言いがたい状況です。しかし海外では脱炭素に関する競争が激しく、サプライチェーンに関わる企業が一体となって進めることが求められています。企業間の連携を広

「今後の展望は、企業間の連携を促し、課題を解決するプラットフォームを築いていきたいです。そのために企業だけでなく、事業者や産業支援団体も巻き込み、出合いの場を増やしていきます。CN推進は、環境面だけでなく雇用創出など地域経済の発展にもつながります。企業価値を高め、県の魅力アップに努めます。」

広島県 広島県商工労働局イノベーション推進チーム
広島市中区基町10番52号
☎082(513)3362 (平日8:30~17:15)

広島県 広島県カーボンニュートラル支援ポータルサイト



広島県商工労働局 イノベーション推進チーム

出射 太 担当課長に聞く

「本年度の取り組みの成果を教えてください。」

「WSの開催に加え、CFP算定のモデル化実証など、企業の主体的な活動の支援に力を入れました。意欲的に取り組む企業が増え、情報交換も進んだと手応えを感じています。WSは省エネ対策を提案する事業者と出会えるきっかけにもなり、具体的な削減策が出てくる企業もありました。」



昨年6月にあったキックオフイベント

実践・座学で学ぶ

WSは広島市内で計3回実施しました。県内ものづくり企業や温室効果ガス削減ソリューションを提供する事業者を招き、企業間連携の推進に力を入れてきました。WSに先立ち、昨年6月に開催されたキックオフイベントでは、CNを取り入れた事業計画の立て方に関する基調講演がありました。活動報告では、自動車部品製造の広島アルミニウム工業(西区)の田中

「WSでは、講義やグループディスカッションを重ねて理解を深めました。企業間で自社の取り組みや課題を共有し、実際の紹介などもありました。企業とソリューション事業者とのマッチングも実現。再エネプロバイダーのエネルギーが3社の電気料金を削減するコストシミュレーションを実施しました。エナリス営業統括本部の阿達洋平課長は「省エネ対策を正しく理解して、もたらえる有意義な場となりました。環境に配慮り、温室効果ガスの排出削減量や吸収量を売上の自給率を上げるための提案を続けていきたい」と、今後の参加にも意欲的でした。プロジェクトの一環で、参加企業は三菱電機福山製作所(福山市)も見学。各ラインのCO2排出量をリアルタイムで確認できる管理システムなどを視察し、今後の取り組みの参考にしました。」



活動報告をする広島アルミニウム工業の田中次郎